

北斗市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

北斗市は、面積397.44km²、人口44,302人(令和2年国勢調査)で、北海道の南端部に位置している。北斗市と函館市の結びつきは、経済面・生活面で強く、通勤・通学・通院等を目的とし、北斗市と函館市間の移動ニーズは高い。
広域幹線(地域幹線系統)としての道南いさりび鉄道・JR北海道・函館バス(上磯線、大野線、郊外路線)を有効活用し、北斗市から函館方面への公共交通のアクセスの強化を図ることで、公共交通の持続性を確保しなければならない。
既存の公共交通で補完できない一定程度の人口が集中するも、広域幹線(地域幹線系統)・市内幹線(フィーダー系統)では補完できないエリアについて、買い物や通院といった日常生活に必要な移動を捉えた効率的な運行が可能な巡回ワゴンを導入し、新たなフィーダー系統としての運行を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく取組を進めている。

地域公共交通の現況

- ・道南いさりび鉄道(七重浜駅、東久根別駅、久根別駅、清川口駅、上磯駅、茂辺地駅、渡島当別駅)
- ・JR北海道(新函館北斗駅)
- ・タクシー(1社)
- ・函館バス株式会社(新函館北斗駅・上磯線、大野線、七飯線、上磯線、函館・江差線、大沼公園・鹿部線、函館・瀬棚線、小谷石線)
- ・その他バス(新函館北斗駅～大沼公園ポロト館前、札幌行き、スクールバス、送迎バス)

生活交通確保維持改善計画の目標

- 市民の移動手段となる公共交通の利便性・効率性の向上を図り、まちづくりと一体となった持続可能な地域公共交通ネットワークを再構築する。
- 市・交通事業者等の関係者が連携し、地域特性に応じた多様な交通サービスを展開することにより、限られた資源の中でも持続可能な地域公共交通への見直しを目指す。

< 具体の目標値 >

- ・幹線補完旅客運送サービスの収支率 20%

協議会開催状況

- 令和6年6月11日
 - ・ワーキンググループを開催し、巡回ワゴン利用促進の取組や運行見直し案等について協議
- 令和6年6月19日(第17回)
 - ・巡回ワゴン利用促進の取組や運行見直し案等について協議
 - ・北斗市地域公共交通計画の改正について及び地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について承認
- 令和7年1月16日(第18回)
 - ・事業評価等について協議

令和6年度事業概要

○巡回ワゴン

- 運行系統名 : (1) 茂辺地・石別線 (2) 上磯線① (3) 上磯線② (4) 大野線① (5) 大野線② (6) 大野線③ (7) 石別地区デマンド
- 運行区間 : (1) 灯台入口～北斗市役所 (2) 押上～上磯駅前商店街 (3) 三好会館～北斗市役所 (4) 稲里～せせらぎ温泉 (5) 長橋～総合分庁舎前 (6) 東開発～総合分庁舎前 (7) 北斗市当別全域、三ツ石全域
- 運行回数 : (1) 188回 (2) 94回 (3) 94回 (4) 100回 (5) 100回 (6) 100回 (7) 58回
- 運行曜日 : (1)～(3)・(7) 月曜・木曜 (4)～(6) 火曜・金曜
- 運賃 : 300円(①三ツ石～茂辺地大橋間での乗降については200円)

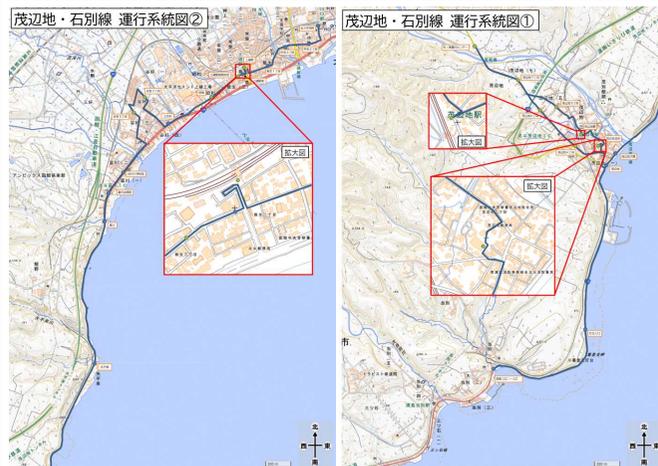
令和6年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・令和5年度事業における利用状況を踏まえ、より乗降しやすい路線とするため国道等を除く路線内にフリー乗降区間を設定したほか、住宅地が点在する当別・三ツ石地区に区域運行を導入した。
- ・鉄道への接続や目的地での滞在時間を改善するため、茂辺地・石別線の起終点を変更し、北斗市役所まで路線を延長(清川口駅で道南いさりび鉄道への接続を改善。石別地区デマンドも同じ。)。さらに、午後の運行も追加した。
- ・また、よりわかりやすい路線とするため、上磯線及び大野線を分割し、起終点が目でもわかる路線となるよう見直しを行った。

2) 運行系統

(1) 茂辺地・石別線



(3) 上磯線②



(5) 大野線②



(6) 大野線③



(2) 上磯線①



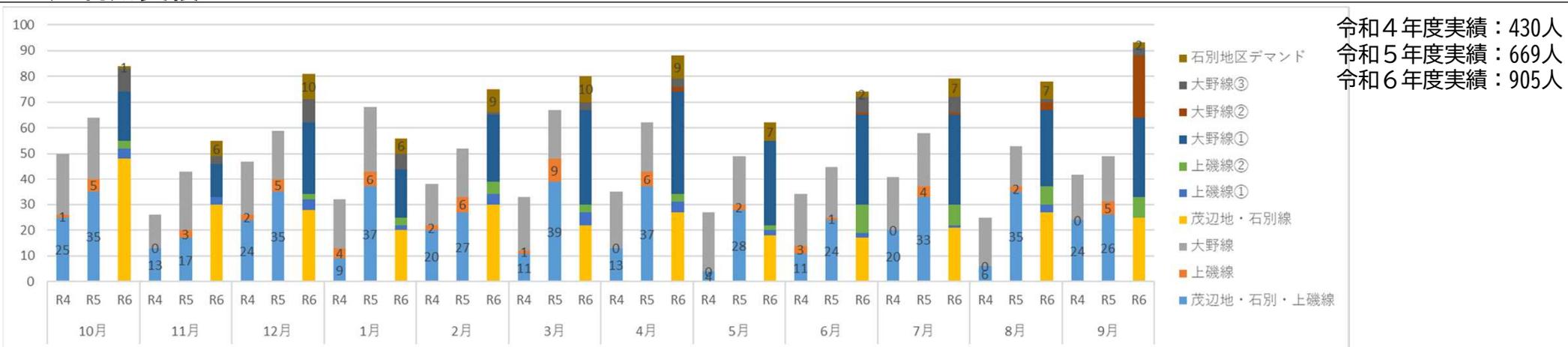
(4) 大野線①



(7) 石別地区デマンド



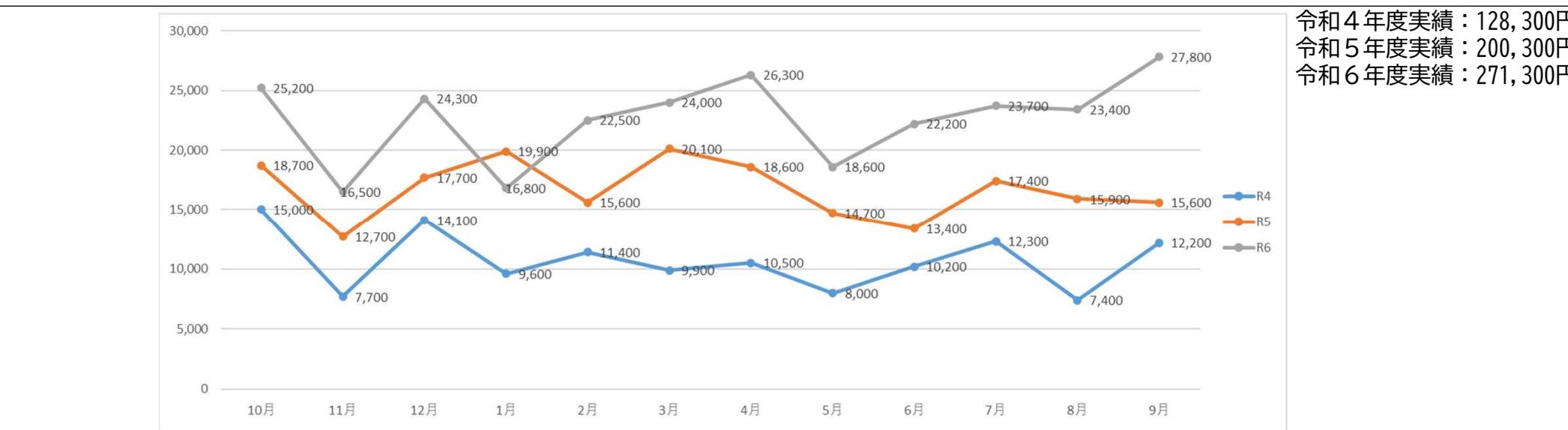
3) 利用実績



	R4			R5			R6			R4			R5			R6			R4			R5			R6			R4			R5			R6			R4			R5			R6			R4			R5			R6		
茂辺地・石別・上磯線	25	35		13	17		24	35		9	37		20	27		11	39		13	37		4	28		11	24		20	33		6	35		24	26		180	373	0	0	0	313	0	0	0									
茂辺地・石別線			48			30			28			20			30			22			27			17			21			25			0			0			0															
上磯線	1	5		0	3		2	5		4	6		2	6		1	9		0	6		0	2		3	1		0	4		0	2		0	5		13	54	0	0	0	34	0	0	55									
上磯線①			4			3			4			2			4			5			4			2			1			0			0			0			0															
上磯線②			3			0			2			3			5			3			3			2			11			8			8			0			0															
大野線	24	24		13	23		21	19		19	25		16	19		21	19		22	19		23	19		20	20		21	21		19	16		18	18		237	242	0	0	0	346												
大野線①			19			13			28			19			26			37			40			33			35			31			0			0			31															
大野線②			0			0			0			0			0			0			2			0			1			1			0			0			0															
大野線③			9			3			9			6			1			3			3			0			6			3			0			0			50															
石別地区デマンド			1			6			10			6			9			10			9			7			2			1			2			0			76															
計	50	64	84	26	43	55	47	59	81	32	68	56	38	52	75	33	67	80	35	62	88	27	49	62	34	45	74	41	58	79	25	53	78	42	49	93	430	669	905															

単位：人

4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

A 計画どおり事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

C 各路線沿線地域高齢者の利用が低調であり、収支率は目標20%に対し11.68%(前年比+2.69pt)であった。

また、輸送量については、大野線①3.4人のみ2人を上回ったが、

それ以外の系統は2人を下回った。

- ・茂辺地・石別線 1.6人
- ・上磯線① 0.3人
- ・上磯線② 0.5人
- ・大野線② 0.3人
- ・大野線③ 0.5人
- ・石別地区デマンド 0.2人

7) 事業の今後の改善点

○鉄道への接続や目的地での滞在時間を改善するため運行時間の見直しを行う。

○また、具体的な行き先、乗車時間、乗降場所、乗り継ぎ情報等を掲載したオーダーメイドの時刻表カードを作成し、高齢免許返納者等で希望する方に配布するほか、モニター乗車、サポート乗車を複数回実施することで、実施に巡回ワゴンを体験してもらう。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・目標を達成することができなかったが、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、利用者数といった事業の改善につながる目標を設定することをご検討いただきたい。